

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077500132		
法人名	有限会社 ひがし		
事業所名	グループホーム三春		
所在地	うきは市浮羽町三春1982-1		
自己評価作成日	平成29年7月24日	評価結果確定日	平成29年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

同じ敷地にある施設(有料老人ホーム)と合同で祭りを行ったり、季節感を感じていただける様に、外出して昼は外食し楽しんでいただいている。天気が良い時には、耳納連山を見ながら散歩したり、午前中の涼しい時間に外でお茶会したりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム三春」は筑後平野と耳納連山を望む、小高い土地にある2ユニット事業所である。窓外には遮蔽物もなく、開放感のある空と山々が一望できる。同敷地内には提携法人の住宅型有料老人ホームも運営されており、法人は市内にもう1か所のGHを運営している。多目的ホールも隣接して構えており、昨年からはそこを活用して、は地域包括の協力の下認知症カフェを開催するようになった。毎月20名を超える利用者が訪れており、利用を通じた入居の受け入れにもつながっている。一時入居者数が落ち込んだ時期もあったが、近隣病院や地域包括への営業も強化して、今年からは満床になっている。隣接した提携法人と協力して運営することで一体的なサービスの利用ができるようになり、機械浴が必要な方など、状態に応じたサービスの提供が可能になった。地域奉仕にも取り組んでおり、今回の豪雨水害に当たっては、被災施設への入浴サービスの提供、ペットボトル提供なども行った。今後も地域を支える介護事業所としての活躍が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時や定例会時に、唱和確認し理念や運営方針を共有している。半期毎に、フロア目標を立て職員の意識向上に努めている。	開設時から定めている理念をフロア、事務室、玄関、毎月のお便りに掲示しており、毎朝の申し送りでも唱和している。理念を元にしたユニットごとの半期目標も職員で話し合って定め、振り返りも行っている。定例会議では理念とともに運営方針も確認し、理念の中で「安心と尊厳のある生活～」という部分は特に意識して取り組むようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月三春便りを地域の方々へ配っている。又、小学生との交流会・中学生の職場体験学習も受け入れている。年に一度の三春祭りには、地域の方々にも一般開放し参加いただいている。	毎月区長にもお願いして、校区内の回覧板に三春だよりを挟み込んで、地域住民に閲覧配布している。昨年から取り組む、認知症カフェも定例化しており、利用者も多く、地域への認知度も高まってきた。毎年の三春祭りにも地域からのボランティア協力に来てもらったり、高校生のブラスバンドの演奏のボランティア、小中学生の体験学習やお泊り学習の際の施設提供などもしている。	以前は運動会や福祉祭りなどの地域行事にも参加していたが、状態の低下や、人員の件もあり最近では難しくなっている。外出ボランティアの活用などで、事業所の負担も軽減しながら、可能なものに参加されていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、月末にはオレンジカフェを開催。又、他のイベント時にも地域の方々に参加していただいている。年に一度は地域の自治協議会主催の小学生お泊り学習での入浴場所として提供し交流の場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行っている。市役所福祉課の職員・ご家族・民生員からの意見を取り入れ運営に反映していく様に努めている。	主に事業所の状況報告と行事報告を行い、参加者からの意見も多い。以前、出勤日によって同性の偏りがあることで意見を頂き、シフトの見直しにもつながった。行事に関しての要望もあり、その場で回答が難しいことも後日事業所内で話し合っ結果のお知らせもしている。家族には全員に案内し、敬老会など同日開催することで通常時より参加も増えている。議事録は玄関に置いて閲覧開示している。	会議時に議事録担当の書記もつくり、発言者や審議、決議事項のとりまとめも行って、漏れの無いよう議事録が整備されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方が、運営推進会議に参加して下さったり、連絡事項はメールや電話で行っている等、良好な関係作りに努めている。	運営推進会議には市と地域包括の職員が毎回参加してくれており、その際に意見を頂くことも多い。生活保護の方の受け入れや入居照会もあり、適宜報告もしている。毎月開催している認知症カフェは市の広報誌やホームページにも掲載してもらっており、運営も地域包括の職員や、市の職員にも手伝ってもらっている。やり取りの機会も多く、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	うきは市のグループホーム部会の年1回の研修に積極的に参加している。日中玄関は、センサー管理している。(不穩時の施錠対応は、家族の了承を得た上で短時間で開錠する様に努めている。)	日中の施錠はせず、センサー管理しており、出来る限り見守りでの対応に努めている。ベッドから転落の危険がある方に対して、夜間のみ四点柵の利用があるが、家族にも説明、了承の上、記録と解消に向けた見直しも行っている。外部研修に参加した際は該当職員が伝達を行い、スピーチロックに関しても気づいた際に随時注意しあうようにしている。地域の福祉祭りで徘徊模擬訓練もされており、運営にも協力している。	

H29自己・外部評価表(GH三春)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	うきは市のグループホーム部会の年一回の研修に積極的に参加している。(職員の言動に常に気を配り防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に積極的に参加している。必要と思われる利用者やご家族に的確な支援ができる様努めている。	地域のグループホーム部会での外部研修や、内部での定例会の中で勉強会もしている。リーフレットも所内に準備して、情報提供できるようにしている。以前成年後見制度の利用者もおり、現在も検討の必要な方がいるが、その際は地域包括や社協などの関係機関と協力して主に管理者が対応する。職員も一般的な制度の理解を進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項は読み合わせをして十分な説明を行っている。ご納得のうえでのサインをいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情受付窓口がある事を明記しており、説明している。面会時等で要望等がないか聞き取りに気を配っている。又、家族や利用者の意見は積極的に取り入れ、運営に反映させるよう努めている。	運営推進会議には通常2名程度参加され、行事の際には5名程度が来られる。意見も多く、行事に関しての要望なども上がっていた。7~8割の家族は月1回以上の面会にも来られており、その際に意見を頂いている。敬老会やクリスマス会は家族にも案内しており、要望から参加しやすい開催日も検討しており、楽しみにしている方もいる。	職員の入れ替わりがあった時のお知らせや、馴染みを持ってもらうために、毎月の三春だよりに職員紹介や一言欄のような枠をつくっても良いのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や半期毎の職員面談を行い、意見等を聞いている。意見は運営に反映する様に努めている。	毎月、全体で行う定例会と、ユニット単位で行うケア会議があり、基本的にパート職員も含め全員参加でされている。意見も積極的に出されており、最近ではシフトの時間帯調整に関して職員からの提議で話し合われている。夏祭りの日程も、参加者の負担などを考え変更に取り組んだ。年2回の個別面談もあり、相談する機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入。年に二回の面接で、目標設定や達成率を聞き入れし、向上心を上げる様にしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用、就業にあたっては、人権の尊重は十分に配慮し働きやすい環境整備に努めている。就業後も各人のレベルアップを支援しやりがいをもち勤務できる様努めている。	全体で18名のうち5名程度が男性で、年代も20~70歳代と幅広い。資格取得に関しても働きかけて支援をしている。職員は能力を活かし、楽器演奏など得意な事をサービスにもつなげている。職員同士もコミュニケーションがよくとられお互いに協力し合っている。休憩時間や場所も確保されており、ゆっくり休むこともできる。家族で勤める職員も多く柔軟な勤務体制をとっている。	

H29自己・外部評価表(GH三春)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム部会で毎年虐待防止等の研修を取り入れ社員は参加している。	地域のグループホーム部会で昨年開かれた虐待防止の研修以外にも、認知症高齢者の理解などをテーマにしたものに参加している。管理者が参加した認知症実践者研修の中で、人権関連の学習機会も持っている。	直近で、認知症実践者研修などに参加する予定の職員もおり、内部での資料回覧や伝達研修によって人権学習を進められてはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップの為、資格取得や研修に出席できる様にシフトの調整や支援を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親睦会や他施設見学研修等を取り入れられており、グループホーム部会に参加する様に促している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族へのアセスメントを元にコミュニケーションを図り、職員間の情報を共有しながらホームでの生活が少しでも安心なものとなるケアプランを立てている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の本人との面談だけでなく、ご家族へのアセスメントも行い、ご家族の困っている事、不安な事、要望等をお聞きしケアプランに反映し、ご家族との良好なコミュニケーションが図れる様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談やご家族への聞き取りを元に、必要な支援を見極めケアプランに反映し良好なサービスが提供できる様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の身体状況に応じ、出来る事を見つけ出し、一緒に行い、常に感謝の気持ちを伝え合う事で、お互いに支え合う気持ちや役立つ自信を持てる様に心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回のお便りや面会時に情報の共有を図り、ホームでの催事に、ご家族で参加していただく等、一緒に過ごせる時間の支援に努めている。		

H29自己・外部評価表(GH三春)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑内での生活が主になってきており、家族との外出さえ出来なくなってきている利用者もいる。地域への参加を考慮しつつ可能なかぎりの外出支援をしている。	家族の面会も多いが、近隣から民生委員の紹介で入居される方もおり、元々の馴染みの方も多し。知人や友人などの来訪もあり、家族に協力してもらって一時帰宅や外泊、行きつけの美容室などに定期的に通う方もいる。状態の悪化により外出が難しくなった方もいるが、家族との相談や事業所からの支援により、出来る限りのことが出来ればと考えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの得意なことをふまえて、それに合ったケアや作業を分担して行い、入居者同士がお互いに認め合えるような支援を心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんど出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からの何気ない言葉や行動に気を配り、そこから考えられる本人の思いをくみ取り、ケア会議にて、スタッフの意見と見方をひろって、ケアに反映している。	主に各ユニットのケアマネがアセスメントしており、入居時には関係施設や家族から情報を聞き取っている。初回にケアマネが記入したものを後から回覧して必要があれば現場からの意見も加筆している。プランに合わせた期間で見直しも行い、6ヶ月～1年で取り直している。基本情報も概ね1年程度で見直す。認知症状の重い方にはセンター方式などを使った別のアプローチをすることもある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族や他施設とアセスメントを行い入居前の生活を継続できる様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での心身状態を確認し、各個人の能力に合った家事等の手伝いが出来る様に、ケース記録等を元に職員間の情報共有を図り一人ひとりの現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランチェック表を通して、ケアのあり方を見直し、必要に応じてケア会議を開き現状に適したケアが出来る様に努めている。	各ユニットのケアマネがプラン作成を行い、半年～一年で見直している。その日の出勤時の職員がケアチェック表を元に、毎日、各プラン目標の実施状況を管理している。状況を元にして3ヶ月のモニタリングを行いプランの変更に繋げている。ケア会議も随時開くことで、現場の意見を取り入れながらプラン改善につなげている。プラン変更時に担当者会議も開き、看護師など専門職からの意見をもらう事もある。	

H29自己・外部評価表(GH三春)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録と申し送りノートや簡易記録シートを活用し、職員間で情報を共有行い計画書の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後、本人や家族の要望に応える事が出来る様に柔軟な支援やサービスに取り組んでいきたい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとして、三春祭りの演芸や、バザースタッフとして参加活動を取り入れる等、祭事等に参加して頂き楽しむ事ができる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師や看護師に必要な情報を提供し連携を図っている。専門医の受診が必要な場合は、ご家族と協力し受診したり送迎したりしている。	希望されれば、元々のかかりつけ医を継続することが出来る。専門科や外部のかかりつけへの通院時は基本的には家族に支援してもらい、提携医の場合は2週に1回の訪問診療が受けられる。訪問看護との医療連携もあり、毎週の健康管理もされている。家族とは逐次医療情報を共有し、内部での申し送りも行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、週一看護師が訪問し入居者の状況把握に努めている。その際、記録を元に必要な情報も提供している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関への入院が多い為、情報のやり取りは常にしている。又、担当医からの情報も伝えてもらい、担当医の協力で早期に退院出来る様努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りの支援についての意向を確認している。重度化の際は、改めて医師立ち合いの元に同意をとっている。看取りに入った場合は、医師や看護師、家族、職員が何度も話し合いながら看取りを行っている。	6年ほど前に医療連携を始めてから、看取りを受け入れるようになった。希望があれば看取りまで出来る旨を契約時に説明し、同意を頂くこともある。今までにも何名かの支援を行ってきており、看取りプランも立てて対応している。提携医も24時間対応で夜間緊急時にも駆けつけてもらっている。昨年から県主催の看取りに関する研修にも参加しており、個別の対応についても対応時には主治医や訪問看護からの指導を受けている。	

H29自己・外部評価表(GH三春)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	二年に一度うきは市消防局から救急救命の講習を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を実施。安全かつ素早く対応出来るように訓練を行っている。又、緊急通報装置を導入し地域の方にも協力をお願いしている。	基本的には夜間想定訓練を行い、全員が参加している。2回のうち1回は消防署立ち合いであり、自主訓練の際の報告も行う。以前はあったが、ここ最近では地域の方の参加や呼びかけはしていない。今年6月には認知症カフェの中で災害の備えに関する研修会を行った。緊急通報装置は、地域の方にも連絡先に入ってもらい、非常時の協力を依頼している。米や水などの食料品の備蓄も進めている。	隣接の、介護老人ホームとも合同訓練を行うことで、非常時の協力体制や、避難行動の整備を進めてはどうだろうか。また、地域の方との訓練時の協力体制が進められることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝申し送り時に、三春の理念を唱和し共通な思いで日々取り組んでいる。	「入居者の人格の尊重」は理念にも挙げられており、日頃から注意するようにしている。トイレの造り上、プライバシーの確保が難しいが、カーテンの設置や目隠しによって極力見えないよう配慮している。十代の新人の入職時には施設長から茶道を通しての作法やマナーなどの指導を行っている。現任者向けの技術向上研修にも機会がある時に積極的に参加させている。お便りなどの写真利用に関しては事前に口頭での同意を得ている。	お便りの写真利用に関しては、回覧板などの外部閲覧もあるため、出来れば書面での利用目的説明や同意が得られることが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴、排泄等日常生活の中で常に、本人の希望にそえる様に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の大まかな流れは決まっているが、常に本人の思いを尊重する様に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理髪店に行かれたり又、定期的に理髪店に来て頂く事で行かれない方にも散髪を楽しんでいただける様に支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生食では、箱膳にしたり季節毎の行事食を提供する事で楽しんで頂いている。又、年に数回ではあるが外食も楽しんで頂いている。テーブル拭きや、皿ふき等の利用者が出来る事は、一緒にしている。その際、スタッフも一緒に食事をし、水分量や摂取状況の把握にも努めている。	業者による半調理済みの食材配達があり、ご飯と汁物のみ事業所内で調理している。入居者にも配下膳やお皿ふきなど出来る事を手伝ってもらっている。お茶会など行事の際にはおはぎやお饅頭づくりなどを一緒にすることもある。誕生会の際などは手作りでの料理に変えている。外出行事の際に外食もしている。職員も同じものを一緒に食事し、感想や要望は誕生会の際などに反映させている。	

H29自己・外部評価表(GH三春)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食事形態・水分量等チェックし各利用者の状態に合わせて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを毎食後行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じた排泄の支援をしている。排泄チェック表を作り排泄時間の把握に努めている。	各ユニットに個別の排泄管理ができるチェック表があり、排泄の時間帯や排泄の有無、状態などを管理している。原則的にトイレ排泄で、自分で出来る方には自分でしてもらい、後から聞き取ってチェックする。元々紙おむつ利用だった方が、失敗も少なくなり、リハパンに変えたこともあった。プライバシーにも配慮し、自尊心を傷つけないよう、見えないように気を付けている。改善は排泄委員会やケア会議などで適宜気づいた職員により申し立てて話し合っている。	排泄チェック表が1ヶ月単位で管理されているが、週単位や月単位での時間帯の変化が、今の記録様式だと読み取りづらい。時間帯の入力の、マス目のルールを統一することで、より排泄傾向などを把握し、失敗の無いトイレでのスムーズな排泄が実現されることに期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて食事量や水分量を把握し運動(荘内散歩等)への参加を促している。又、医師の指示により便秘薬での排便コントロールをしている。(自然排便が困難な利用者)		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り全員入浴出来る様にしている。拒否がある場合は、スタッフが交代したりしているが、本人の意向を尊重する様にしている。	やや広めの家庭用ユニットバスの造りで、原則、午後から全員に毎日入浴してもらっており、日課にもなって血流の改善や清潔保持にも大いに役立っている。リラックスした時間がコミュニケーションにもつながり、会話も弾んでいる。井戸水を使っており、浴槽の湯も適宜入れ替えたり、入浴剤も使うなどしてそれぞれで楽しんでいる。皮膚観察や健康管理の機会としても活かしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人希望で休みたい時は、量の間に自分の部屋にて休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書は各人のファイルに保管しており、随時確認出来るようにしている。一人ひとりに応じた服薬支援に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、一人ひとりに応じたレクリエーションやカラオケ等を取り入れたり楽しんでもらっている。		

H29自己・外部評価表(GH三春)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、いつでも外出される様にしている。(家族同伴の下)	全体での外出行事は年に3回程度企画されており、日常的には、敷地内や周辺の散歩などを気軽に行っている。家族に外出支援してもらう事もあり、外食や一時帰宅などをされている。外出意欲の低下された方もいるが、全員で行くことで、出先では楽しんでもらっている。家族が来たタイミングで、希望があれば自由に連れ出してもらう事も出来る。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理能力が難しく職員にて預かり、必要に応じて支払等行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近では、携帯電話を持っており、そこは本人の自由にしている。(家族了承の下)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロア内の壁に新しく壁紙を貼り雰囲気を変え、又動線には物を置かない様に支援している。	平屋建てで、各ユニットは玄関を中心に左右対称に配置されている。周辺は広大な田畑に囲まれ、開けており、耳納連山も一望できる眺めは開放的で四季の移り変わりが間近に感じられる。中庭を中心にドアを開放すれば回廊式にもなり、一周することもできる。季節折々の飾りなども作り所内も彩っていた。ホール端に小上がりの和室スペースもあり、横になって休憩したり、ボランティアのステージ代わりにもなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席でくつろがれる利用者、ソファで横になれる利用者等一人ひとりの日常を見守りながら、職員も一緒に居心地のよい居場所作り心掛けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の担当職員が、利用者や、ご家族と相談しながら居心地よく、かつ安全に過ごせるよう工夫に努めている。	各居室は6畳ちよつとの広さで共通しており、基本はビニールタイプの床だが、希望すれば畳敷きにも変えられる。電動介護ベッドも備えつけたが、布団で休むこともできる。周辺を自然に囲まれた立地のため、窓外に草花が望め開放的である。家具の持ち込みも自由で、使い慣れた椅子などのほか、掃除機を持ち込んで自分で掃除をする方もいた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がなるべく自立出来るように、居室にはネームプレートを取り付けている。トイレや浴室は一目見てわかる様に、大きく表示している。又、安全確保の為、動線には物を置かない様にしている。		